

# 解答と解説

1 (A)

**[解答例]**

科学技術の発達で人間の生活が向上した面もあるが、科学技術によって解決不可能な問題や悪化した問題もあり、人類は以前より恵まれているとは言えない。(71字) (12点)

[出典] *Original Material*

[全訳]

近代科学技術は過去300年で急速に発達し、人間の生活を完全に变化させた。農業、医学と医療、遠距離通信、交通、コンピュータの導入など、様々な分野が進歩し、多くの意味で世界はより住みやすい場所になった。しかし、この進歩も、それがもたらした恩恵も、大局的に見れば部分にすぎない。実際は、人類全体が以前よりも恵まれているとは必ずしも言えないのである。

科学技術だけでは解決できない問題が数多くある。その1つが貧困である。富裕国家は今、国富の大半を食料生産や医療に関連する技術に費やしている。貧困国家には、そのような技術を賄う財源がまったくない。飢餓、栄養不良、疾病は今でも世界の至る所で蔓延しており、食料、住居といった生活の基本的必要が万人に提供されていると言いはない。

実際は科学技術によって悪化した問題も数多い。たとえば、かつては科学が世界平和をもたらすという希望があったが、その希望は立ち消えてしまった。現実には、現在進行中の全ての科学調査のほぼ65%が直接的あるいは間接的に兵器開発に関係しており、殺戮の手段が進歩したために過去100年の戦死者は2億人を超えている。もう1つの問題は科学技術を使って自然を利用することである。これによって地球の環境は大いに打撃を受けたが、今度はそれが人間にとって深刻な問題を引き起こしつつある。

**[設問解説]**

2000年度以降、東大前期試験の要約問題は、いずれも300語以内のコンパクトな文章が用いられている。全文要約問題の出題が今後も続くとしても、全体の問題量・解答量を考えると、それ以上の長文になることはないだ

ろう。どれも論旨は明快であり、何を言っているのかわからないほど難解な内容でもなく、述べられていることは一読しておよそ理解できるはずである。そのようなレベルの文章だと、読んで理解したことを「簡潔にまとめる」ことができるかどうか、すなわち、日本語の表現力で差がつくものである。今回は2006年の出題をモデルに、各段落の内容をまんべんなくまとめることができるかどうかを試す問題を出题した。

1. 文章全体の流れをカバーするよう心がける。

複数の段落を持つ文章が要約の素材として用いられている場合は、具体例のみ列挙されたものは別として、全ての段落の内容に触れることが基本である。本問では、第1段落第3文と最終文の内容が第2、第3段落で展開する構成になっている。

*Paragraph 1*

- ①~② 科学技術の発達によって人間の生活は向上した。
- ↓しかし
- ③~④ 人間が以前より恵まれているとは言えない。

*Paragraph 2*

- ① 科学技術では解決できない問題がある。
- ②~⑤ = 例

*Paragraph 3*

- ① 科学技術によって悪化した問題がある。
- ②~⑤ = 例

したがって、第1段落のHoweverの前後を「科学技術の発達により生活は向上したが、人類は以前より恵まれているとは言えない(38字)」のようにまとめて解答全体の骨格とする。これに第2、第3段落の内容を追加する(この2つの段落は第1段落最終文の「根拠」ととってもよい)。

2. 「具体例」は解答に含めない。

第2段落は5つの文から成り立っているが、第2文以降で触られているのは第1文で述べられた「科学技術が解決できない問題」の一例である。「具体例を挙げながら説明せよ」という指示がある場合は別だ

が、具体例は理解の道具として使うもので、解答の骨格に入れるものではない。それを参考として言わんとするところをすくい上げるのが原則である。字数も考慮すると「おおざっぱで抽象的な書き方」をしてある第1文を使って「科学技術では解決できない問題がある」ということを表現できていけばよい。

第3段落も、第2文(For example, ...)以降の「科学技術の軍事利用→平和達成への障壁」や「環境破壊→人間に悪影響」といった記述は、第1文の「科学技術によって悪化した問題」の例であるから、第2段落と同様に、こども第1文の内容が解答に表現できていけばよい。

1 (B)

1	ウ	2	ア	3	オ	4	カ
(各2点)							

[出典] Jeffrey Kluger: *Can We Learn to Beat the Reaper?: Science has been winning battles against old age, but can it win the war?* (adapted)

[全訳]

人の身体に少しでも機会を与えれば、いつの間にか死のうとする。癌でなければ心臓病だし、心臓病でなければ脳卒中である。身体の死に方をひと通り見ると、身体は死にたがっているのだと思ってしまうようになる。実際、死にたがっているのである。

地球の生物は生きる機会を得る前でさえ、いくつかのかなり厳しい条件に同意しなければならなかった。すなわち、生まれ、成長し、子供を生み、そして脇に退き、次世代へと道を譲るということである。動物と植物はこの決まりを難なく守る。しかし人間は、自然が想定したよりも長く生きることを望み、その決まりを変えようとし続ける。科学者と医者にとって、人の生命を延ばすことほど魅力的な目標はなかったし、これほど達成するのが難しいことはなかった。今になって初めて、それがいつまでも叶わないかもしれない目標であることを我々は学びつつあるのだ。

人間が生きられる長さについて限界はないと考えるもっともな理由がかつてはあった。ホモサピエンス進化初期の平均余命はちょうど20年だったと考えられている。20世紀の初めまでに、その値は2倍以上になったが、それでもまだ47年と短いものだった。しかしながら、それ以来、平均余命は大いに延び、先進国の人間は現在ゆうに70歳を超えて、そしてしばしばそれ以上の年齢まで生きることができる。

(空所1)

ウ しかし、平均余命(病気か事故で命を奪われるまで、生きることが期待できる年数)は寿命(単に消耗したり、動かなくなったりするまで、管理の徹底された、病気がない身体が生きられる最大の年数)ではない。先に述べた延びは、多くの子供時代の死や、今では中年だと考えられる年齢で死をもたらしていた病気を治療することで達成されてきた。そして、こうして平均余命は延びるのである。一方、寿命はおおよそ125年という固定した上限で止まったままである。

「たとえ科学が現在知られている高齢者の病気をすべて治しても、現在の平均余命は15年しか延びないだろう」と、カリフォルニア大学サンフランシスコ校の解剖学教授であり、『どのように、そしてなぜ我々は年を取るのか』の著者であるレオナルド・ヘイフリック博士は述べている。その場合も事故と、加齢に伴う臓器機能の喪失によって高齢者の命は奪われはじめることになる。少なくとも理論上は、125歳に達する人もいるはずなのだが。

(空所2)

ア しかし、人間の寿命はこの限界を超えてさらに延ばすことができると信じ続けている人が多い。老いた身体が機能を停止するならば、細胞の中の何かが、そうするように指示しているからに違いない。それを見つけて止めさせることができるならば、私たちは無限に生きることができないだろうか。そう、原理的にはできるが、実際にはおそらく不可能である。

ヒトゲノムが染色体上に位置づけられる前でさえ、科学者は細胞の加齢に関係していると思われる遺伝子、いわゆる「老化遺伝子」を見つけた。もっと重要なことに、科学者たちは、染色体の末端部にあり、細胞分裂の個々の時間を短縮する、テロメアと呼ばれる構造をも発見した。テロメアがほとんど消失せるときに、細胞は分裂するのを止め、細胞株は死に絶える。テロメラーゼと呼ばれる自然に生じる酵素は一部の細胞の中でテロメアの長さを維持することができる。

(空所3)

オ しかし、ものごとはテロメラーゼを細胞に与えさえすればよいというほど単純ではない。ひとたび細胞を不滅にすると、まさに癌細胞が破壊的な結果をもたらすまで分裂するように、無限に分裂し始める。その問題を示唆する最近の研究では、科学者たちは腫瘍を抑制する力を持つP53として知られている酵素がまた平均余命を短くするかもしれないことを発見した。遺伝子の操作に関して、老化遺伝子を改良するか、その作用を妨げるタンパク質を導入することは理論的に可能だが、老化に関わる何千もの遺伝子がどれなのかに関しては、宇宙船建造

がロケット学者の力を超えているように、生物学者の力をはるかに超えているのかもしれない。ニューヨーク市にある国際長寿センターのロバート・バトラー所長は「それは長い道のりになるだろう」と認めている。

寿命を延ばそうとする他の方法にもまた問題がある。老化防止と称されるサプリメントを摂取すると、ある種の病気の危険性を高める可能性がある。カロリー摂取量を30パーセントも制限することで、檻に閉じ込められていた動物の中には命を延ばしたのもいた。しかし檻の中の動物は自由な人間ではないし、ともかくも食事の摂取量を3分の1も減らしたりする者など、すでに健康な人の中にいるわけがない。

(空所4)

カ 状況をもう少し希望をもって眺めると、不死には手が届かないものの、125年の寿命はまだ向こうで手招きをしている。50歳で死ぬ原因となる心臓発作のお膳立てを整えつつある食習慣と生活習慣を止めれば、すぐに何十年も命を延ばすことができる。病気治療法の進歩と相まって、地球規模で同じ事を行えば、人間という種全体の平均余命がさらに少しずつ延びることになる。米国には百歳以上の人が5万人ほどいるが、これは3億近くの人がある国ではさほどの数ではない。しかし、時間が経つにつれて、その数万という数は徐々に数百万になるかもしれない。そうした人たちの仲間入りをするには努力を要するが、それはますます多くの人がすることをいとわないと思っている努力である。

[ダミーの訳]

イ 細胞にテロメラーゼを与えると寿命を延ばすことができるとする学説はかなり多い。テロメアが着実に短くなるのが老化と癌予防にある役割を果たすかもしれない。テロメアがある種の遅延「ヒューズ」として機能するかもしれない。結局、特定回数の細胞分裂の後に不足し、将来の分裂とともに、細胞の染色体から死活的な遺伝子情報が完全に無くなるという結果になるからである。

エ しかし、途上国の多くでは、現在でも、劣悪な衛生状態や武力紛争、極端な貧困ゆえに平均余命はわずか40～50年のままである。この不平等は南北に深刻な問題を引き起こすかもしれない。したがって、WHOやNGOを含む多くの開発機関がそうした国々の医療部門に対する援助額を増やしている。それにもかかわらず、紛争や貧困の根本原因になお取り組むことが必要であり、科学はこの問題の解決に貢献することができるのである。

[設問解説]

◇解法のポイント

一つおきでの段落補充問題では、前後両方の段落とつながる選択肢を選ばなくてはならない。つまり文章に一貫性を持たせるようにするのである。段落と段落は、形式的には①接続語、②指示語、③同語・同義語・関連語によって、内容的には①対立・対比、②解説・例示、③添加・追加、④原因・根拠という関係でつながっているのだから、それを手がかりとして正解を導き出す。

◇第1～3段落の内容

第1、2段落では、人間は、他の生き物とは違い、自然の摂理よりも長く生きようとしてきたことが述べられ、ここまでが序論である。続く第3段落では日本語の問題文に記された「人間の寿命 (life-span) と平均余命 (life expectancy)」のうち、平均余命が出てくる。ここからが本論で、平均余命が特に20世紀以降、急速に延びてきたことが述べられている。

◇空所1について

空所1の直前にある第3段落最終文に「平均余命が現在、先進国では70年を超えている」とある。選択肢の第1文に平均余命の語があるのはウとエで、2つの選択肢とも対立・対比の接続詞 But で始まっている。「平均余命と寿命とは異なり、寿命は延びずに125年のままである」というウとも、「途上国では40～50年のままである」というエとも内容的に対立・対比の関係になる。さらにウの第2文の主語である The gains mentioned above も第3段落の内容を指すが、最終的にどちらが正解なのかは空所の直後にある第5段落とのつながりで決まる。第5段落は「平均余命はあと15年延びても、理論上可能な125年(つまり寿命)までは延びない」という研究者の話で、ウの内容を発展させたものなので正解はウである。

◇空所2について

空所2の直前にある第5段落で、研究者は寿命が125年と考えていることが述べられている。But で始まる選択肢アを入れると、「多くの人はまだまだ延びると考えている」と対立・対比の関係になる。さらにアの「身体が衰えるように指示している何らかの細胞内物質」の具体的内容が、空所2の直後、第7段落にある「老化遺伝子」と「テロメアの消滅」なので、アが正解であることが確認できる。

◇空所3について

空所3の直前にある第7段落最終文でテロメラーゼ (telomerase) という酵素が出てくる。選択肢の最初の文でこの語が用いられているのはイとオである。空所3の直後にある第9段落の第1文では「寿命を延ば

そうとする他の方法にもまた問題がある」と述べられていることから、空所3には寿命を延ばす可能性のあるテロメラーゼを増やすことにも問題があるとの内容でなければ、tooによって表現される添加・追加の関係にならない。選択肢イにはテロメラーゼ付与の問題性について言及がないのに対して、オは細胞を不滅にすることによる破壊的な結果に言及しているので、正解はオである。第7段落にはじめて出てくる「いわゆる老化遺伝子」が、オでは単なる「老化遺伝子」との表記で出てくることもヒントになる。

Mr. A says they should not go on a school trip to visit temples and shrines next year. He believes that to make the students happy and to help broaden their horizons, too, they should be taken abroad. Ms. B objects to his proposal, because she thinks the students should stay in Japan and learn more about Japanese history and culture. (61 words)

【設問解説】

◇書き方について

「60～70語」という語数指定なので、当然この範囲で収まっていなければならない。しかし、実際の入試でも、採点官がいちいち語数を数えているとは思えないので、多少は大目に見る。ただ、できれば答案の最後に〈○○ words〉と書くのが望ましい。それが採点官への「エチケット」である。

◇内容面のポイント

設問文に「A先生とB先生の主張とその根拠を明確に伝えるような形で述べよ」とあることから、ポイントは次の4つということになる。

- ①「A先生の主張」
- ②「A先生がそのように主張する根拠」
- ③「B先生の主張」
- ④「B先生がそのように主張する根拠」

答案では、この4項目が上記の順序通りに述べられている必要がある。そうでなければ「明確に伝えるような形」とは呼べないだろう。

- ①「A先生の主張」  
A先生の2番目のセリフ「いっそのこと(修学旅行の)行き先を海外にするというのは」こそ、まさにA先生が一番訴えたいことである。
- ②「A先生がそのように主張する根拠」  
A先生の3番目のセリフにある「海外へ行って見聞を広めることが重要なのではないでしょうか」というのが直接的な根拠である。「神社仏閣を訪れても学生は喜ばない」の部分はオプションだが、60～70語という指定があるため、この部分を入れないと語数的につらくなるだろう。
- ③「B先生の主張」  
B先生の3番目のセリフ「とんでもない。海外なんて大反対です」、つまりA先生の主張に反対という立場がB先生の主張である。
- ④「B先生がそのように主張する根拠」  
B先生の最後のセリフ「学生たちは日本の歴史や文化についてもっと造詣を深めるべきではない

2 (A)

(12点)

【解答例1】

Mr. A suggests going abroad for their school trip. He thinks that if they visit temples and shrines, the students won't have much fun, and believes that going abroad will broaden their horizons. Ms. B disagrees, saying that if they go abroad, it will be too hard to take proper care of the students, and that the students should learn more about Japanese history and culture. (66 words)

【解答例2】

Mr. A proposes that they should go on a school trip abroad, because he believes that students will find it easier to broaden their minds by going abroad rather than by visiting temples and shrines. Ms. B is opposed to this idea. She thinks that it is more important for the students to learn more about Japanese history and culture. (60 words)

【解答例3】

でしょうか」がその直接的根拠である。3番目のセリフにある「海外などへ行ったらとても学生たちの面倒を見きれません」はオプションで、これは解答に含めなくてもよい。上記②においては、A先生の「神社仏閣の訪問をやめる」は「海外へ行く」ことを補強するものであるから、解答に入れておいた方がよいが、この④においては、「面倒見きれない」はB先生が悲鳴を上げているだけ、つまり個人的感情であって、「主張の根拠」とは言い難いからである。

上記以外の内容が含まれていても減点対象とはならないが、関係のない事柄が含まれているために上記に挙げたポイントが落ちている場合は大幅減点につながる可能性がある。

#### ◇表現上のポイント

実際にどのような英語を使って表現すればよいか、具体例を一部紹介する。

##### ①「A先生の主張」

☆「A先生は…と主張している」 Mr. A **suggests** -ing [解答例1] / Mr. A **proposes** [suggests] that S (*should*) do [解答例2] / Mr. A **says** that they **should** go [解答例3] (それぞれ語法に注意)

☆「修学旅行の行き先を海外にする」 go abroad for their school trip [解答例1] / go on a school trip abroad [解答例2]

##### ②「A先生がそのように主張する根拠」

☆「見聞を広める」 broaden one's horizon [mind]

☆「神社仏閣」 temples and shrines

##### ③「B先生の主張」

☆「…に反対である」 disagree (with ...) [解答例1] / be opposed to ... [解答例2] (to ... の部分は省略できない) / object to ... [解答例3] (to ... の部分は省略できない)

##### ④「B先生がそのように主張する根拠」

☆「日本の歴史や文化についてもっと造詣を深める」 learn more about Japanese history and culture (新たに知識を増やすという意味合いなので、know / understand はあまりよくない)

☆「学生たちの面倒を見きれない」 won't be able to take proper [adequate] care of the students / will have trouble controlling [supervising] the students

#### ◇最後に

かつて東大は自由英作文の設問文に「内容よりも作

文能力を問う問題であることに注意せよ」という文言をつけ加えていた。この文言は現在では見られないが、採点方針としては生きていると思われる。したがって、この模試でも、内容的におかしくなければ多少英語がメチャクチャでも、という採点はしない。上記にあげた語句を使ってどのように英文を作り上げるか、また作り上げた文同士をどのような接続詞を使ってまとめあげていくかもポイントになる。

2 (B)

(18点)

[解答例1]

When I was a child, my family moved several times because of my father's job. Each time I had to change schools and leave friends behind. I began to stop making friends, because I knew that some day I would have to leave them behind. In the future, if I become a father, I'll refuse any transfer because I wouldn't want the same thing to happen to my child. (69 words)

[解答例2]

When I was twelve, my pet rabbit died. It was a rabbit my mother had bought me because I begged her to, but soon I got tired of it and forgot to feed it. After that, I suffered from a sense of guilt. Since then, I've never wanted to keep a pet. I learned that you shouldn't have a pet unless you can take care of it responsibly. (68 words)

[解答例3]

When I was in junior high, I was often bullied. It was very painful for me to go to school. I even thought of committing suicide, but I didn't because I didn't want to break my parents' hearts. Now I try as much as possible to be nice to others, because I know cruel or careless words can hurt them deeply. (61 words)

[設問解説]

◇書き方について

(A)と同様、「60～70語」という語数指定なので、この範囲で収まっているのが望ましい。

◇内容面でのポイント

設問文で指示されている次の3つの項目は当然含まれていなければならない。

- (1) 具体的にどのようなことがあったのか
- (2) その出来事があなたにどのような影響を与えたか
- (3) その出来事からあなたが何を学び取ったか

これらの指示からわかるように、本問ではただ単に過去に発生した悲しい事件を記述し、「つらかった」「悲しかった」とわめくだけでは答案にならない。ここで書くべき「あなたにとって今まで一番つらかった出来事」とは、その後の「あなた」に大きな影響力を持つ具体的な結果を残し、かつ「教訓」と呼べるようなものをもたらした「出来事」なのである。この二重にかけられた枷をふまえた上で、「つらかった出来事」を選定、または「創作」しなければならない。そこが本問のポイントであり、また難しい部分でもあろう。

#### ◇展開上のポイント

上述したような「つらかった出来事」を、[解答例]では3つ「創作」してみた。どのように論が展開されているか眺めてみよう。

##### [解答例1]

- (1) (出来事の内容) → 「父親の仕事の都合で何度も転校を余儀なくされ、そのたびに友だちとの別れを経験した」
- (2) (その結果生じた影響) → 「どうせ友だちとの別れが待っているのだから、いっそのこと友だちを作るのをやめた」
- (3) (教訓) → 「将来自分が父親になったら、同じ想いを子供にさせないため、絶対に転勤は断るつもりだ」

##### [解答例2]

- (1) (出来事の内容) → 「母親にせがんで買ってもらったペットのウサギを、自分のいい加減さから死なせてしまった」
- (2) (その結果生じた影響) → 「罪悪感に苦しみ、それ以来ペットを飼いたいと思わなくなっている」
- (3) (教訓) → 「責任が取りきれない人間はペットを飼うべきではない」

##### [解答例3]

- (1) (出来事の内容) → 「中学の頃いじめを受けた」
- (2) (その結果生じた影響) → 「学校に行くのがつらく、自殺まで考えた」
- (3) (教訓) → 「何気ない言葉が人を傷つけ得ることを身をもって知っているのだから、他人にはつとめてやさしく接するようにしている」

#### ◇表現上の注意点

- ・(1)について

「つらかった出来事」は、諸君にとってつらかったものであればどのような事件でも構わないが、発生

した時期を具体的に明示する必要があるだろう。[解答例1]の“When I was a child”, [解答例2]の“When I was twelve”, [解答例3]の“When I was in junior high”がそれに相当する。単に「昔」「過去に」ではあまりにも当たり前で、答案としてのクオリティーは低い。

- ・(2)について

設問文で「つらかった出来事を書け」と指示されているのだから、この(2)において、ことさら「つらかった」「悲しかった」と記述することは無意味である(それはすでにわかっている)。また、「落ち込んだ」「傷ついた」などと書くのも結局は同じことで、もし(2)にこのような趣旨の英文しか書かれていないようであれば、それは答案として失格である([解答例2]の「罪悪感に苦しんだ」は確かに「落ち込んだ」と同列のものではあるが、「それ以来ペットを飼いたいと思わなくなっている」という内容が付記されている点に注目)。

- ・(3)について

「学び取ったもの」すなわち「教訓」とは、その場限りの一過性のものではなく、今も肝に銘じている内容でないとおかしい。したがって、現在時制を用いて書くことになるだろう。[解答例]でもこの部分に関してはすべて現在形が使われていることに注目してもらいたい。

### 3

(A)	(1) エ	(2) イ	(3) ウ
	(4) エ	(5) ア	(各2点)
(B)	(1) エ	(2) has had the irritating experience	
	(3) ア	(4) ウ	
	(5) we're sure will be well received		(各2点)
(C)	(1) ウ	(2) エ	(3) ウ
	(4) エ	(5) ウ	(各2点)

#### [出典]

- (A) Cafédirect: *History of Tea* (adapted)
- (B)(C) *Original Material*

#### [放送内容]

(編集注: 実際の試験では英文は2回ずつ放送されますが、CDでは収録時間の都合上1回の収録となっております)

聞き取り問題は(A)(B)(C)の3問あります。

パート(A)は、講義を聞いて、設問に答えるものです。

パート(B)は、ある架空の新商品についての記者発表を聞いて、設問に答えるものです。

パート(C)は、パート(B)に続く記者会見を聞いて、設問に答えるものです。

放送を聞きながらメモを取っても構いませんが、解答はすべて解答用紙の所定欄に記入して下さい。また、この聞き取り問題の放送が終わったあと、解答を続けることも、差し支えありません。

では、始めます。

パート(A)

これから放送される講義を聞いて、設問に答えなさい。

では、始めます。

Part A

Tea is so much a part of everyday life in Britain that we might never stop to think about how a unique plant from faraway China became the nation's favourite drink. But the history of tea is fascinating, and here we'll follow its story from the earliest times in Imperial China right up to its present place at the heart of British life.

Legend has it that tea was discovered in China in 2737 BC by the Emperor Shen Nung, when the leaves of a wild tea bush accidentally fell into a pot of boiling water. By the time of the Tang Dynasty tea had become China's national drink.

Tea was first brought to Portugal and Holland by missionaries and sailors returning from China. By the early 17th century, as China slowly opened up to trade with the outside world, regular cargoes of tea began to arrive in Europe and eventually Britain.

At first, only royalty could afford to drink tea; then the nobility acquired a taste for it. Servants were introduced to tea by drinking the 'dregs' — using leaves left over from their masters' brew.

Britain was one of the last European countries to be converted to tea drinking. The first record of tea trading with Chinese merchants is dated 1644. One of the first tea sellers in Britain was Thomas Garway, who sold it at his coffee house in Exchange Alley, London.

The British East India Company had a monopoly on tea trading from about 1600 to 1858, and did much to popularise the drink. In 1773 the Tea Act of the

British Parliament tried to strengthen this monopoly — angry Americans responded by throwing tea shipments into the sea, in the famous 'Boston Tea Party'.

Tea became popular in refined British society during the reign of King Charles II, when his Portuguese wife, Catherine of Braganza, introduced tea to the Court. Although Charles tried to suppress 'seditious' meetings by banning the sale of tea, coffee, chocolate and sherbet from private houses, public outcry meant that he had to withdraw his proclamation after six days.

By the middle of the 18th century tea had become Britain's most popular drink, much to the dismay of the Government, which profited from the sale of alcoholic drinks.

The quintessentially British custom of taking afternoon tea is believed to have started with Anna, 7th Duchess of Bedford, who invited friends for a light meal with tea and conversation around 5 p.m. Few Britons take high tea these days, but the tradition of a 'tea break' from work, which started in the industrial revolution, has survived into the 21st century.

Tea is still an integral part of socialising in the UK. Over 163 million cups of tea are drunk every day in the UK. The tea market looks set to take part in the new cafe society as new 'tea bars' are starting to open across the country.

[英文(A)・繰り返し]

これでパート(A)は終わりです。

ではパート(B)を始めます。

パート(B)

これから放送される記者発表を聞いて、設問に答えなさい。

では、始めます。

Part B

Tony: Ladies and gentleman, let me welcome you to Electron Industries. We've called today's press conference to announce our newest product, the WLP-One. This is our latest digital music player. We believe it has the potential to transform the way people listen

to and enjoy music.

In a moment, I'll ask the Project Leader, Sally Fleming, to explain all about the WLP-One. Following Sally's presentation, you will have an opportunity to ask questions. Sally, over to you.

SF: Thank you, Tony. As you all know, the market for digital music players is growing rapidly. To enter such a competitive market, you have to come up with an exciting product with unique features. According to a market survey we recently conducted, there are three things consumers are not satisfied with. The first is the size and the weight of currently available digital players. Customers want smaller and lighter products which they can carry around more easily.

The second is having to deal with cables. Everyone has had the irritating experience of their earphone cable getting tangled up. And a lot of people lose the USB cable they need to import music from their computer. The third is having to be at their computers to download music. They want to be able to download music wherever and whenever they want to.

To solve all these problems we have developed the WLP-One. I'm sure all of you are impressed with its size. As you can see, it is as small as a stamp, about one inch by one inch, and is only as thick as a credit card. You can download about 1,000 songs to this player, which should be more than enough for anybody. These are the earphones that come with it. Of course, there's no cable. The WLP-One has a transmitter inside it and the earphones have a receiver. The whole system operates wirelessly.

We are also thinking of setting up what for the time being we're calling "WLP stations" in various places, where users can download music wirelessly. Let me show you how it works. This is a prototype WLP station, which works as a host. You place your WLP-One near the station. (Beep) I think you heard the beep, which means that downloading has started. (Beep) And, OK, now it's over. Only

about two to three seconds are needed for downloading a song. If we set up WLP stations in places like train stations, bus terminals, schools, and CD shops, users will be able to download music whenever they want to.

This wireless function also allows you to share music with your friends. You can transmit a piece of music not only to your earphones, but to your friends', too. This "sharing function" is one of the unique functions of the WLP-One which we're sure will be well received by the consumer.

That's all I have to tell you for now. We'd now like to take questions from the floor.

[英文(B)・繰り返し]

これでパート(B)は終わりです。  
ではパート(C)を始めます。

パート(C)

これから放送される記者会見を聞いて、設問に答えなさい。

では、始めます。

Part C

Tony: Thank you Sally. Ladies and gentleman, could I ask you to give your name and affiliation before you ask your question ....

JF: Jim Fredriks. I'm a correspondent for *Techno Magazine*. The WLP-One is quite impressive. How much are you planning to sell it for?

SF: We haven't reached a final decision, but the price should be around \$100.

JF: I'd like to know more about the way you download music at a WLP station. For example, how do you select the music? I mean, if the procedure is complicated, I'm sure a lot of people will be turned off.

SF: Well, before you go to the station, you'll access the station's homepage using your computer or cell phone and choose all the music you want to download. Each WLP-One has a unique ID, so all you need to do at the station is to place the player near the host. Your player will be detected and download

will start automatically.

JF: Last question. You mentioned a "music sharing function." But don't you think that function will violate copyright laws?

SF: We believe sharing music with friends is not a violation of copyright laws. People have always done that. At school and home we listen to the same piece of music together with our friends or family. Besides, the radio waves transmitted by WLP-One are weak, so ...

JF: Yes, but what if a person is listening to their player on the train, for example? Wouldn't anyone around them with the right earphones be able to listen to songs for free?

SF: That can't happen, because in order for earphones to pick up the signal from a particular player, they'd have to first be registered for it.

JF: I see. Well, this product sounds like a real winner!

Tony: Let's move on to the next question. The person in the third ..., no, fifth row, please ...

YS: Thank you. I'm Yoko Suzuki, and I'm with TV Yokohama. How many songs will be available when you start the service?

SF: About half a million and we are doing our best to increase that number. We're sure that even more record companies and artists will join us in the near future.

YS: Is there a possibility of the users suffering brain damage from the radio waves?

SF: Well, as I've already said, the radio waves transmitted from the players are really weak, so that's shouldn't be a problem.

YS: But have you conducted any tests?

SF: Well, no. We haven't so far. But we're following all the regulations, so that really shouldn't be a problem.

YS: You mentioned setting up your WLP stations at CD shops. Do you really think they'd allow that?

SF: Yes, of course, because then they'd have a new way of selling music. Also, by installing WLP stations, CD shops would be able to reduce the number of CDs they have in stock, so they could be smaller. This would

reduce their expenses and almost guarantee an increase in profits.

Tony: Ladies and gentlemen, that's all we have time for. Thank you all for coming. Please remember to pick up your information packs at the Reception Desk as you leave.

[英文(C)・繰り返し]

これで聞き取り問題の放送は終わりますが、このまま解答を続けても、また他の問題に移っても構いません。

2006年度の本番の問題と同様、あまり手の込んだ問題は含まれていない。間違えた問題については放送内容と全訳を参照の上、再度考えてみることにしよう。

(A)

[全訳]

紅茶はイギリスの日常生活の一部とあまりにもなっているため、遠く離れた中国からやってきた他に類をみない植物がどのようにして国民の最もお気に入りの飲み物になったのかをじっくりと考えることはないかもしれない。しかし、紅茶の歴史は興味深い。ここでは最も初期の皇帝時代の中国から、イギリス人の生活の中心を占めるようになったまさに現在に至るまでの歴史をたどることにしよう。

伝説によれば、お茶は中国で紀元前2737年に皇帝の神農が、野生の茶葉が偶然沸騰しているお湯の入った瓶に落ちたときに発見したそうである。唐の時代になるまでには、お茶は中国の国民的な飲み物になっていた。

お茶は最初中国から戻った宣教師や船乗りたちによってポルトガルとオランダにもたらされた。中国がゆっくりと外国との貿易に門戸を開いたのに伴って、17世紀の初期までには、お茶を運ぶ定期的な貨物がヨーロッパ、そして最終的にはイギリスに到着し始めた。

最初、紅茶を飲むことができたのは皇族だけであったが、それから貴族がそれを好むようになった。そうした人たちに仕える者たちは、「残りかす」を飲むことによって（つまり、自分たちの主人の飲んだ後に残っていた葉を使って）初めてお茶に触れる機会を得た。

イギリスはヨーロッパの国々の中で紅茶を飲むことに転向した最後の国の1つである。中国の商人と紅茶を取り引きした最初の記録は1644年になっている。イギリスで最初に紅茶を販売した人の1人がトーマス・ガーウエーであり、彼はロンドンのエクステンジ・アレーにある自分のコーヒーショップでそれを売ったのだ。

イギリス東インド会社はおおよそ1600年から1858年

に至るまで紅茶の貿易を独占して、紅茶を大いに普及させた。1773年に英国議会の定めた紅茶条例はこの独占を強化しようとしたものであり、怒ったアメリカ人は、有名な「ボストン・ティー・パーティー」で、紅茶の積み荷を海に投げ捨てることで対抗した。

紅茶はチャールズ2世治世の時代にイギリスの上流社会で人気となった。その時代に王のポルトガル人の后であるキャサリン・オブ・ブラガンザが紅茶を宮廷に紹介したのである。チャールズは、個人の家への紅茶、コーヒー、チョコレートそしてシャーベットの販売を禁止することによって「扇動的な」会合を抑えつけようとしたが、大衆の激しい抗議に遭い、6日後にはその布告を取り下げなければならなかった。

お酒の販売から利益を上げていた政府は大いに狼狽したが、18世紀の中頃までには、紅茶はイギリスで最も人気のある飲み物になっていた。

午後に紅茶をいただくというイギリスの典型的な習慣は、ベッドフォード家の7代目の女公爵であるアンナから始まったと信じられている。彼女は午後5時ぐらいに紅茶を飲み、おしゃべりをしながら軽食をとるために友人たちを招待していた。今日ではハイ・ティーをいただくイギリス人はほとんどいないが、産業革命の時代に始まった、仕事からの「ティー・ブレイク」の伝統は21世紀まで続いてきている。

紅茶は今ではイギリスにおける社交の不可欠な要素となっている。イギリスでは1日に1億6300万杯以上もの紅茶が飲まれている。新たな「紅茶バー」が国中で開店するようになるにつれて、紅茶市場は新しいカフェ社会に参加する用意ができてきているように思える。

#### [設問解説]

(1) 「講義によれば、お茶は…」

正解はエの「偶然発見された」。第2段落に the leaves ... *accidentally* fell into ~ と書かれていることに対応する。

アは「最初に中国で紀元前2713年に作られた」の意。第2段落よりお茶の発見は紀元前2737年となっているので不可。また第2段落には唐の時代までには、お茶は国民的な飲み物になったと書かれていることから、イの「唐の時代まで知られていなかった」も不可。ウの「最初は薬として使われていた」は本文中に全く該当する記述がないため不可。

(2) 「17世紀には…」

正解はイの「中国はその市場を外国に対して徐々に開放しつつあった」。第3段落第2文 (By the early 17th century, ...) の内容と一致する。

アは「紅茶を飲んだのは王や女王の召使いだけだった」の意。「召使いのみが飲んだ」とはどこにも述べられていないので不可。ウの「お茶はポルトガルとオランダだけに輸出されていた」は、第3段落の最後の部分で、「定期的なお茶の積み荷が最終的にはイギリスに到着するようになった」と述べられていることに反するため不可。エの「お茶はポルトガルやオランダ経由でイギリスにもたらされた」は、「ポルトガルやオランダ経由で」が誤り。

(3) 「イギリスは…の1つだった」

正解はウの「紅茶を飲むことが人気になった最後の国」。第5段落第1文 (Britain was one of ...) の内容と一致する。

他の選択肢の意味はそれぞれ次の通り。ア「お茶を育てていたヨーロッパの数少ない国」、イ「インドの商人と直接貿易をしていた数少ない国」、エ「紅茶がいかに健康的かを理解した最後の国」。

(4) 「怒ったアメリカ人が紅茶の積み荷を海に投げ込んだ理由は…」

正解はエの「英国議会在紅茶の貿易に関してさらに大きな支配権を行使しようとした」。第6段落第2文 (In 1773 ...) の内容に一致する。

ア「彼らはボストンで開かれた茶会に招待されていなかった」、イ「イギリス東インド会社は紅茶をアメリカに違法に輸出していた」、ウ「彼らはイギリスから直接紅茶を輸入することを許されていなかった」は、いずれも本文中に該当する記述がないため不可。

(5) 「ハイ・ティーの習慣は…」

正解はアの「以前ほど普通には行われていない」。第9段落第2文 (Few Britons take high tea ...) の内容に一致。

イの「トーマス・リプトン卿によって始められた」とエの「以前の植民地でのみ生き延びている」は本文中に該当する記述がないため不可。ウの「女公爵が友人を軽食に誘った7世紀に始まった」は年代が間違っているため不可。

(B)

#### [全訳]

トニー：皆様、本日はエレクトロン・インダストリーにお越しいただきありがとうございます。今日はいくつかの記者会見を開かせていただきまして、私どもの最新の製品、WLP-Oneを発表させていただきます。これは弊社の最新のデジタル・

ミュージック・プレイヤーでございまして、音楽の聴き方・楽しみ方を変える潜在的な能力を持っていると思っております。

まもなく、今回のプロジェクト・リーダーであるサリー・フレミングより WLP-One のすべてについてご説明させていただきます。サリーの発表の後に、質疑応答の時間ももうけてございます。ではサリー、よろしく申し上げます。

サリー：トニー、ありがと。ご存じの通り、デジタル・ミュージック・プレイヤーの市場は急速に拡大しております。こうした競争の激しい市場に参入するためには、独自の特徴を持った刺激的な製品を生み出さなければなりません。最近行なった市場調査によりますと、消費者の方々が満足していない点が3点ございます。第1点が現在入手可能なデジタルプレイヤーの大きさと重さです。消費者の方々は携帯がより容易なもっと小型で軽い製品を望んでいらっしゃいます。第2点はケーブルを扱わなければならない点です。ご自分のイヤホンのケーブルがこんがらがってしまういららする経験はどなたもしていらっしゃるでしょう。さらにはコンピュータから音楽を転送する際に必要な USB ケーブルをなくしてしまう方も大勢いらっしゃいます。第3点は、音楽をダウンロードする際にコンピュータの置かれた場所にいななければならないということです。お客様はどこでもいつでも好きなときに音楽のダウンロードができるようになります。

こうした問題のすべてを解決するために弊社では WLP-One を開発いたしました。この大きさには皆様、驚かれたと思います。ご覧の通り、切手ほどの大きさ、つまり1インチ×1インチほどの大きさです。そしてクレジットカードほどの厚さしかありません。このプレイヤーには1,000曲ダウンロードすることができまして、どなたにとりましてこの曲数で十二分かと思えます。これが付属のイヤホンですが、もちろんケーブルはありません。WLP-One には送信機が内蔵されておまして、イヤホンには受信機が内蔵されております。システムすべてがワイヤレスで動くようになっております。

また弊社では、目下のところ仮に「WLPステーション」と呼んでおりますものを様々な場所に設置することを考えておまして、そこでユーザーの方々はワイヤレスで音楽をダウンロード

することができます。どのような仕組みになっているのか実際にご覧いただくことにいたしましょう。こちらが WLPステーションの試作機でして、これがホストとして働きます。WLP-One をこの機械のそばに置きます。(ピー) 今、ピーという音が聞こえたと思えますが、これはダウンロードが始まったという合図です。(ピーピー) これで OK ですね、ダウンロードが終了しました。1曲のダウンロードに必要なのはわずか2、3秒です。列車の駅、バスターミナル、学校、そして CD ショップなどに WLPステーションを設置いたしますと、ユーザーの方々はいつでも好きなときに音楽をダウンロードできるようになります。

ワイヤレス機能を利用することによって、お友だちと音楽を共有することも可能になります。曲をイヤホンだけではなくお友だちにも送信できるわけです。この「共有機能」は WLP-One 独自の機能の1つでして、必ずや消費者の方々に十分受け入れていただけると信じております。とりあえず今、私の方が申し上げることは以上です。ここで皆様方からのご質問を承りたいと思います。

#### [設問解説]

(1) 「この会社が WLP-One を市場に出す決意をした理由の1つは…」

正解はエの「この製品は既存のデジタルプレイヤーの抱えている問題をいくつか解決してくれて、それゆえとても人気がある可能性が高い」。サリーのプレゼンテーションの内容と一致する。

アは「この国ではまだ入手可能なデジタル音楽プレイヤーが多くない」の意。「市場競争が激しい」と言われていることから、多くの同種の製品がすでに発売されていると考えるのが自然。イの「消費者は既存のデジタルプレイヤーの音質に満足していない」とウの「この国の景気は改善されてきており、消費者はより高価な商品を買うことをいとわない」は、いずれもプレゼンテーションの中では触れられていない事柄であり不可。

(2) 「次の文はサリー・フレミングのプレゼンテーション中に出てくる。あなたに聞こえる言葉をそのまま使って空所を埋めなさい」

正解は Everyone has had the irritating experience of their earphone cable getting tangled up. の太字部分。[放送内容]を参照のこと。

(3) 「この会社が誇りにしていることの1つは…」

正解はアの「WLP-Oneが非常に薄いこと」。サリーが記者発表の中で誇らしげに「クレジットカード程度の薄さ」と述べていることに対応する。

「音質」については言及していないので、イの「プレイヤーの音質が素晴らしい」と、「高級なイヤホンがつく」とは言っていないので、ウの「プレイヤーにはとても高級なイヤホンがついてくる」はいずれも不可。またメモリーカードについても言及していないので、エの「WLP-Oneは様々な種類のメモリーカードとともに使うことができる」も不可。

(4) 「WLP-Oneのワイヤレス機能のおかげで可能になるのは…」

正解はウの「様々な場所で音楽をダウンロードすること」。WLPステーションとの接続は無線で行われ、多くの場所で素早く音楽をダウンロードすることが可能になる、と述べられている。

他の選択肢の意味はそれぞれ次の通り。ア「1,000曲ダウンロードすること」、イ「より高品質な音楽をダウンロードすること」、エ「ケーブルを使うよりはるかに素早く音楽をダウンロードすること」。

(5) 「次の文はサリー・フレミングのプレゼンテーションの終わり近くに出てくる。あなたに聞こえる言葉をそのまま使って空所を埋めなさい」

正解は… the WLP-One which we're sure will be well received by the consumer の太字部分。  
[放送内容]を参照のこと。

(C)

[全訳]

トニー：サリー、ありがとう。ご来席の皆様、お名前と所属先をおっしゃってから質問をしていただけますでしょうか？

ジム：ジム・フレドリックスです。テクノ・マガジンの記者をしています。WLP-Oneにはかなり驚きましたが、いくらで販売する計画なのでしょう？

サリー：まだ最終的な決定には至っておりませんが、100ドルほどになるかと思います。

ジム：WLPステーションで音楽をダウンロードする方法についてもう少し聞かせてください。たとえば、どのように選曲をするのでしょうか？つまり、もしその手順が複雑なら、多くの人は間違いなく興味を示さなくなってしまうと思うんですが。

サリー：えー、ステーションに行く前に、コンピュータか携帯電話を使って、ステーションのホームページにアクセスして、ダウンロードしたい曲すべてを選択しなければなりません。それぞれのWLP-Oneには別々のIDがつけられていますから、ステーションに出向いたときにはプレイヤーをホストのそばに置くだけで結構です。プレイヤーが認識されて、ダウンロードが自動的に始まります。

ジム：最後の質問です。「音楽共有機能」についてお話になりましたが、その機能が著作権法に抵触するとはお考えではありませんか？

サリー：私どもはお友だちと音楽を共有することが著作権法違反になるとは思っておりません。これまでもそうしたことは常に行われてきたわけですから。学校でも家でも同じ曲を友だちや家族と一緒に聴いていますよね。それにWLP-Oneが発する電波は微弱ですから、…

ジム：ええ、でも、たとえば誰かが電車でプレイヤーを聴いていたらどうですか？周りにいる人がWLP-One用のイヤホンをしていれば、無料で歌を聴けることにはなりませんか？

サリー：それはあり得ません。というのはイヤホンがある特定のプレイヤーからの信号を受信するためには、まずそのプレイヤーに登録しなければなりませんから。

ジム：なるほど。えー、この商品は非の打ちどころがないようですね。

トニー：次の質問に移りましょう。3列目、いや5列目の方どうぞ。

ヨウコ：ありがとうございます。鈴木洋子と申します。テレビ横浜の者です。サービスの開始時点では何曲が利用可能になるのでしょうか？

サリー：約50万曲ですね。そして今その数を増やすべく全力を尽くしています。近い将来にはさらに多くのレコード会社やアーティストが参加してくれると信じております。

ヨウコ：ユーザーの人が電波で脳に障害を負うようなことは考えられませんか？

サリー：えー、すでに申し上げましたように、プレイヤーが発する電波は実際、微弱でして問題にはならないはずですよ。

ヨウコ：でも何か実験をなさいましたか？

サリー：えー、これまでのところやっております。しかし、すべての規制をクリアしておりますので、問題になるはずは本当にありません。

ヨウコ：WLPステーションをCDショップに設置する

というお話でしたが、許可されると実際お考えですか？

サリー：もちろんです。と申しますのは、設置することでCDショップは音楽の新しい売り方を手にすることになるからです。また、WLPステーションを設置することで、CDショップは在庫として抱えるCDの枚数を減らすことができますので、店舗を今より狭くすることが可能です。これによって経費も減りますから、利益の増加は保証されたようなものです。

トニー：ご出席の皆様、残念ながら時間のようです。本日はお越しいただきましてありがとうございます。お帰りの際には、お忘れなく受け付けで資料集をお受け取りください。

### [設問解説]

(1) 「WLPステーションで音楽をダウンロードするには…」

正解はウの「最初に会社のホームページにアクセスし、ダウンロードしたい曲を選ばなければならない」。サリーの2回目のセリフを参照。

アは「ステーションに行き、ダウンロードしたい曲を選びさえすればよい」の意。その前に必要な「ホームページへのアクセス」に触れていないので不適。イは「携帯電話で会社のダウンロードセンターに電話をかけ、ダウンロードしたいものを伝えなければならない」の意だが、「携帯電話でホームページにアクセスできる」と述べられているのであって、「電話をかける」わけではない。エは「最初に会社のオフィスの1つで自分のWLP-Oneプレイヤーを登録してもらわなければならない」の意。「それぞれのプレイヤーには独自のIDがついている」と述べられているが、最初にその登録をしなくてはならないとは言われていないので不適。

(2) 「ジム・フレドリックスは…について懸念している」

正解はエの「著作権法の侵害になる可能性」。ジムが“don't you think that function will violate copyright laws?”と聞いていることがヒント。

他の選択肢の意味はそれぞれ次の通り。ア「IDを登録する手順がどのくらい複雑かということ」、イ「WLP-Oneが電車の中で引き起こす可能性がある『騒音公害』」、ウ「大きな音のポピュラー音楽が子供の耳に与える影響」。

(3) 「ジム・フレドリックスが“this product sounds like a real winner”と言っている理由は…」

正解はウの「彼はサリーの答えに満足している」。この直前でジムが「著作権の侵害」について質問したのに対し、サリーはなぜそうした心配が全く無用なのかを説明している。ジムはその答えに「満足」し、この商品の唯一の懸念が晴れたという思いから、“this product sounds like a real winner”と言ったと考えるのが最も自然である。

他の選択肢の意味はそれぞれ次の通り。ア「彼はとても皮肉屋である」、イ「彼は自分の考えが認められてうれしい」、エ「彼はそう発言するように言われている」。

(4) 「鈴木洋子は…」

正解はエの「WLP-Oneの無線の能力が体に害を及ぼすかもしれないと心配している」。ヨウコが“Is there a possibility of the users suffering …?”と聞いていることと内容的に一致。

アは「サービスが始まった時点で50万曲が本当に利用可能かどうかを疑っている」の意。「何曲が利用可能か」と質問をしてはいるが、「50万曲」ということを疑っている素振りは見せていないので不可。イ「『ワイヤレス操作』が何を意味しているのか完全にはわかっていない」、ウ「ユーザーがダウンロードしたい音楽を選ぶ方法についてもっと知りたいと思っている」は、いずれも彼女の発言内容とは無関係であり不可。

(5) 「この会社がCDショップが喜んでWLPステーションを設置すると信じている理由は…」

正解はウの「多くのCDショップは在庫として抱えるCDの枚数が減ることで恩恵を被るだろう」。サリーの最後の説明の内容と一致する。

ア「大都市のCDショップの大部分はどちらかといえば小さい」、イ「多くのCDショップはデジタル音楽市場が成長していることを知っている」、エ「今、CDショップが直面している問題の大部分は、WLPステーションを設置することで解消するだろう」は、いずれも会話の中で全く述べられていないことであり不可。

4 (A)

(2番目－3番目の順に)

- (1) カーエ (2) イーキ (3) アーキ  
(4) エーイ (5) ウーカ (両方正解で各1点)

[出典] Ron Clark: *The Excellent 11* (adapted)

[全訳]

アメリカの教育を向上させる鍵は、さらなる科学技術の導入でもなければより大きな図書館の設立でもない。それらは両者ともに役割を果たしているが、とりわけ学生たちに最大の影響を与えている要素は、教壇に立つ教師である。アメリカには科学技術も大きな図書館もない学校があり、古くて役に立たない本を持っている学生もいる。それなのに、彼らの成績やテストの点は非常に高い。その主な理由は、それらの教室には熱血教師がいるということだ。したがって問題は、なぜすべての教室にそのような教師がいないのかということなのである。理由の1つとしては、残念なことだが、教師の給料が仕事の期待度とつり合っていないということだと思う。丸一年にわたり講演をしながらアメリカ中を回ったのは私の人生の中で最も大変な一年だったでしょうと、周りの人たちから言われたけれど、実際、教室での一年に比べれば、大したことではなかった。教師として、我々は精神的にも肉体的にも感情的にも日々疲れ果てており、これ以上大変な職業はありえない。優秀な教師は学生たちを我が子のごとく考え、その一人ひとりに人生が変わったと思わせるような結果をもたらさなければならないというプレッシャーを感じているのである。それはストレスの多い、きつい仕事である。子供の頃は「教師なんてそんな大変な仕事であるはずがない。毎年夏は休みになるのだから」などと考えていたものだが、私は全く物を知らなかったと言うしかない。それは信じられないほど大変な仕事で、求められている努力の量につり合う見返りを教師たちが受けていないのは残念なことである。

大学時代、私には教職に興味を持つ友人が何人かいたが、家族を養えるだけの収入を得たいと考えて、彼らはその道を断念した。教師である現在、他の職業で2倍の給料を提示されて教職を辞した同僚を今まで何人も見てきている。扶養家族がいる場合、そのような金額は魅力的である。もし教師の給料が実業界で働く人々の給料と張り合えるものであったら、大学からできる限り優秀な人材を登用して教職に就かせることができるだろう。そうすれば、まもなくすべての教室に、学生に考えられる限りの最高の教育を与えようと専念する教師がいることになるだろう。それこそ我々が望んでいることではないだろうか。

教師に十分な報酬を与え、可能な限り優秀な人材を大学から登用して次世代の学生たちの教師にすれば、すばらしいスタートが切れる。さらに、誰にでもできることは、教師に敬意を表し、教師が行っていることに我々がどれだけ感謝しているかを彼らに示すことである。

[設問解説]

(1) 正解はカーエ。

並べかえた英文：**that above all others has the greatest**

above all others で「とりわけ；なかんずく」という意味の慣用句。また、空所の後に impact on と続いていることから、have an impact on ... (…に影響を与える) という表現を考え、選択肢にある the / greatest と合わせて has the greatest (impact on) とする。この has の前に残った that を置けば、that has the greatest (impact on our students) が空所の直前にある the factor を先行詞とする関係代名詞節として働くようになり、the factor (S) ... is (V) the classroom teacher (C) と構文的にも収まる。ここで問題となるのが above all others の位置であるが、that has the greatest の中に挿入できる場所は that と has の間しかない。

(2) 正解はイーキ。

並べかえた英文：**it was nothing compared with one year**

compared with ... で「…と比べれば」という意味の慣用句だが、何と比べるのかを考えることが重要。空所の前で「丸一年にわたり講演をしながらアメリカ中を回ったのは私の人生の中で最も大変な一年だったでしょうと、周りの人たちから言われた」とあり、空所の直後の文では「教師として、我々は精神的にも肉体的にも感情的にも日々疲れ果てており」とあることから、講演者としての一年と教師としての一年を比べているのではないかと考え、compared with one year (in the classroom) とまとめる。さらにこの2つの文の内容と、残った選択肢 was / it / nothing から、「一年間の講演活動など、一年間の教師生活と比べれば何でもない」と言いたいのではと推察し、it was nothing compared with one year (in the classroom) と一挙に答えを割り出す。ちなみにこの nothing は「取るに足らないこと」という意味である。

(3) 正解はアーキ。

並べかえた英文：**it is a shame teachers aren't compensated**

aren't の主語は teachers 以外なく、a に続く名詞は shame しかない。aren't に続く語句だが、teachers aren't a shame や teachers aren't it では意味を成さないの、teachers aren't compensated であろう。残った選択肢は is / it であるから、ここで it is a shame (that) S V (S が V するのは残念であ

る) という慣用表現を考え、最終的に *it is a shame teachers aren't compensated* とまとめる。

(4) 正解はエーイ。

並べかえた英文：*were offered double the pay in other*

*because they* の後は述語動詞が続くため、*<they> were offered* と並べるのは容易。*offer* は第4文型で「O<sub>1</sub>にO<sub>2</sub>を提供する」という意味だが、彼らに何を与えるのかと考え、*they were offered the pay* とする。残った *double / other / in* だが、空所の直後に *fields* とあることから、*in other <fields>* とまとめる。問題は *double* だが、この語には「*double the <名詞>*」で「2倍の<名詞>」という意味合いになる用法があるため、*the pay* の前につけて「2倍の給料」という内容にする。(例) *Queensland is more than double the size of Texas.* (クイーンズランドはテキサスの2倍以上の大きさである)

(5) 正解はウーカ。

並べかえた英文：*everyone can do is treat teachers*

空所の直前に *something that* とあるが、この *that* は *something* という代名詞の後に続いているから、「それ」ではなく関係代名詞の *that* であろう。次に、選択肢の *do* は第3文型をとるため目的語が必要だが、相当するものが見あたらないことから、その目的語は関係代名詞の *that* と考える。したがって、*something* 以降の構造はとりあえず *something that S do* となる。さらにこの *something* は文全体の主語になっていると思われるため、*something* を受ける述語動詞は *is* である可能性が高い。

次に、空所の後にある *and show them* だが、この *and* は *show* と何か別の動詞をつなぐと考えるのが自然。さらに *with respect* (敬意を持って) とあるから、その動詞は *treat* であろう。*treat* は第3文型なので目的語が必要だが、「敬意を持って扱う」という内容から、*teachers* か *everyone*。ただ、*show* 以下に「彼らが行っていることに我々がどれだけ感謝しているかを彼らに示す」とあることから、*teachers* が妥当である。ここまですべてを整理すると、「*<something that> S do is "treat teachers <with respect and show them ...>"*」となる。

残りは *can / everyone* だが、*everyone* は *do* の主語になれないから、*everyone can do* とする。すべてをまとめると、*<something that> everyone can do is treat teachers <with respect>* となる。ちな

みに、*is treat* という並びに違和感を感じるかもしれないが、これは本来 *is to treat* である。名詞用法の *to* 不定詞が *be* 動詞の補語になる場合、しばしば *to* は省略される。(例) *All we can do is (to) wait.* (我々にはできることは待つことだけだ)